

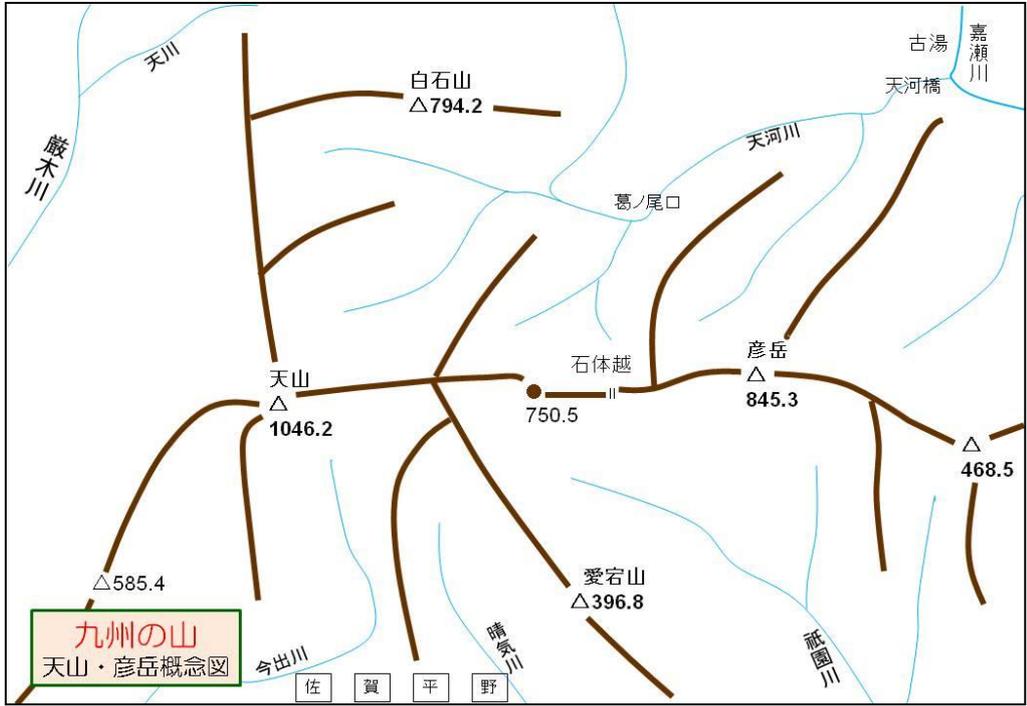
踏み跡 <My Mountains>

九州(佐賀)	古湯から天山	No.188
--------	--------	--------

天山(てんざん)・彦岳という名前の組み合わせに味わいがある。おまけに、2月に脊振山地の稜線から眺めた真っ白な山容も気に入った。ということで、歩いてみることにした。

昭和55年9月14日

天気は快晴、秋の山歩きには最適な空の色。



10時に家を出発、国道263号線を南下し三瀬峠を越えて北山(ほくざん)ダム経由古湯へ。古湯を過ぎてしばらく進み天河橋を渡ったところで嘉瀬川を離れて支流の天河川沿いの谷間に入る。登山口である葛ノ尾口のバス停近くに駐車、時計を見ると11時10分。身支度を整えて目の前に迫る天山を仰ぎ見ながら歩き始める。出発は11時35分。葛ノ尾入口11時55分。「天山登山口」と書かれた大きな看板に導かれ

て棚田の中を歩いて行くと、ヒガンバナとハギが出迎えてくれた。目の前の天山の緑色と相まって気持ちの良い景色が続く。

沢から離れて真南に尾根を直登して750.5m峰に出るルートを選択。ところが、途中で踏み跡を失い藪こぎをするはめになってしまった。

汗びっしょりかいて稜線に飛び出したら13時45分。さらに西へじわりじわりとひたすら登り続けること一時間余で天山の山頂に到着。14時45分、ここは海拔1046.2m、草原が広がる気持ちのよさそうな頂上で、越後の山を思い出させてくれる。しかも予想したとおりの眺めにただ驚くのみ。カメラを持ってこなかったことが悔やまれる。

目の前に有明海、そこに向かって流れ込む筑後川と早津江川の輝き、佐賀平野・神埼・久留米等の町、久住方面は霞の中、雲仙は薄らと見える程度、武雄から諫早方面の山はすべて鮮やかに見える。北側に首を回すと、九千部山、脊振山から羽金山、十防山、浮岳に至るまでの背振山脈。眺望の良さでは満点の山である。眺望をおかずに昼食、そして満足ついでに多少の昼寝。

15時40分に頂上を出発し、下山開始。彦岳を前に置いて稜線を東進。

石体越(しゃくたいごえ)16時30分。特に標識は立っていないが、天山と彦岳との間に明瞭なくびれがあり、一本の越路が通っている。彦岳への登り道は、カヤトの中に埋もれておりかなり歩きにくそうだ。時間的なこともあり、彦岳はあきらめて北側の谷へ下る。

車をデポした葛ノ尾口に17時30分に帰着。

往路を舐めるように戻り、三瀬峠を越えて自宅へ19時に帰着。

素晴らしい山が、素晴らしいままに汚されていない。東京周辺の山のように頂上に売店を作ったりしないせいだろうか、登山人口が少ないせいだろうか・・・。

以上